

教育行政の4つの基本的方向性

⇒ 改正教育基本法の理念を踏まえ教育再生を実現するため、各学校段階を貫く視点を設定し、成果目標・指標、具体的方策を体系的に整理(次頁参照)。

資料1-1

1. **社会を生き抜く力の養成**
~多様で変化の激しい社会の中で個人の自立と協働を図るための主体的・能動的な力~
→ 「教育成果の保証」に向けた条件整備
2. **未来への飛躍を実現する人材の養成**
~変化や新たな価値を主導・創造し、社会の各分野を牽引していく人材~
→ 創造性やチャレンジ精神、リーダーシップ、日本人としてのアイデンティティ、語学・コミュニケーション能力などの育成に向けた多様な体験・切磋琢磨の機会の増大、優れた能力と多様な個性を伸ばす環境の醸成
3. **学びのセーフティネットの構築**
~誰もがアクセスできる多様な学習機会を~
→ 教育費負担軽減など学習機会の確保や安全安心な教育研究環境の確保
4. **絆づくりと活力あるコミュニティの形成**
~社会が人を育み、人が社会をつくる好循環~
→ 学習を通じて多様な人が集い協働するための体制・ネットワークの形成など社会全体の教育力の強化や、人々が主体的に社会参画し相互に支え合うための環境整備

(共通理念)

- ◆ 教育における多様性の尊重
- ◆ 社会全体の「横」の連携・協働
- ◆ ライフステージに応じた「縦」の接続
- ◆ 現場の活性化に向けた国・地方の連携・協働

(教育投資の在り方)

- ◆ 現下の様々な教育課題を踏まえ、今後の教育投資の方向性としては、以下の3点を中心に充実を図る。
 - ・ 協働型・双方向型学習など質の高い教育を可能とする環境の構築
 - ・ 家計における教育費負担の軽減
 - ・ 安全・安心な教育研究環境の構築(学校施設の耐震化など)
- ◆ 教育の再生は最優先の政策課題の一つであり、欧米主要国を上回る質の高い教育の実現が求められている。このため、将来的には恒久的な財源を確保しOECD諸国並みの公財政支出を行うことを目指しつつ、第2期計画期間内においては、各成果目標の達成や基本施策の実施に必要な予算について財源を措置し、教育投資を確保していくことが必要。

(危機回避シナリオ)

- 個々人の自己実現、社会の「担い手」の増加、格差の改善(生涯現役、全員参加に向けて個人の能力を最大限伸長)
 - 社会全体の生産性向上(グローバル化に対応したイノベーションなど)
 - 一人一人の絆の確保(社会関係資本の形成)
- ⇒ 一人一人が誇りと自信を取り戻し、社会の幅広い人々が実感できる成長を実現

我が国を取り巻く危機的状況

相互に連関

- **少子化・高齢化の進展**
 - ・ 生産年齢人口の減少(2060年には、我が国の人口は2010年比約3割減の約9千万人まで減少。そのうち4割が65歳以上の高齢者。)
 - ・ 経済規模縮小、税収減、社会保障費の拡大
 - 社会全体の活力低下
- **グローバル化の進展**
 - ・ 人・モノ・金・情報等の流動化
 - ・ 「知識基盤社会」の本格的到来
 - ・ 新興国の台頭等による国際競争の激化
 - ・ 生産拠点の海外移転による産業空洞化
 - 我が国の国際的な存在感の低下
- **雇用環境の変容**
 - ・ 終身雇用・年功序列等の変容
 - ・ 企業内教育による人材育成機能の低下
 - 失業率、非正規雇用の増加

東日本大震災により一層の顕在化・加速化

- **地域社会、家族の変容**
 - ・ 地域社会等のつながりや支え合いによるセーフティネット機能の低下
 - ・ 価値観・ライフスタイルの多様化
 - 個々人の孤立化、規範意識の低下
- **格差の再生産・固定化**
 - ・ 経済格差の進行→教育格差→教育格差の再生産・固定化(同一世代内、世代間)
 - 一人一人の意欲減退、社会の不安定化
- **地球規模の課題への対応**
 - ・ 環境問題、食料・エネルギー問題、民族・宗教紛争など様々な地球規模の課題に直面しており、かつてのような物質的豊かさのみの追求という視点から脱却し、持続可能な社会の構築に向けて取り組んでいくことが必要。

一方で...

【我が国の様々な強み】

- 多様な文化・芸術や優れた感性
- 勤勉性・協調性、思いやりの心
- 科学技術、「ものづくり」の基盤技術
- 基礎的な知識技能の平均レベルの高さ
- 人の絆

【震災の教訓(危機打開に向けた手がかり)】

- 諦めず、状況を的確に捉え自ら考え行動する力
- イノベーションなど未来志向の復興、社会づくり
- 安心して必要な力を身に付けられる環境
- 人々や地域間、各国間に存在するつながり、人と自然との共生の重要性

【第1期計画の評価】

- 第1期計画で掲げた「10年を通じて目指すべき教育の姿」の達成はまだまだ途上。
 - ・ 様々な取組を行ったが、学習意欲・学習時間、低学力層の存在、グローバル化等への対応、若者の内向志向、規範意識・社会性等の育成など依然として課題が存在。
 - ・ 一方、コミュニティの協働による課題解決や教育格差の問題など新たな視点も浮上。
- 背景には、「個々人の多様な強みを引き出すという視点」「学校段階間や学校・社会生活間の接続」「十分なPDCAサイクル」の不足など

今後の社会の方向性

⇒ 成熟社会に適合し知識を基盤とした自立、協働、創造モデルとしての生涯学習社会を実現

創造

自立・協働を通じて更なる新たな価値を創造していくことのできる生涯学習社会

自立

一人一人が多様な個性・能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り開いていくことのできる生涯学習社会

協働

個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かして、ともに支え合い、高め合い、社会に参画することのできる生涯学習社会